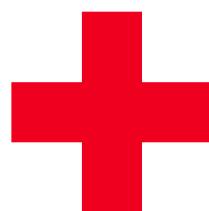


令和2年度
事業報告書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

埼玉県支部

令和2年度にお寄せいただいた

活動資金の総額

6億3,458万2,862円

※令和2年度末会員数134,311（個人・団体・法人計）

皆さまのご支援で赤十字活動を展開することができました。



皆さまのご協力で
苦しんでいる人を救うための
赤十字活動を展開することができました。
誠にありがとうございました。



赤十字 はじめに

赤十字事業の推進につきましては、赤十字会員、ボランティア、地区・分区、学校関係者をはじめとした多くの県民の皆さまからの温かいご支援とご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

日本赤十字社埼玉県支部では、人間のいのちと健康、尊厳を守り、苦しんでいる人を救いたいという思いのもと、令和2年度も県内赤十字施設一体となり、赤十字思想に共感してくださる皆さまとともに赤十字事業に取り組んでまいりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、私達の生活において急激な変容に対応せざるを得ない年となりました。

感染拡大防止の観点から、計画していた事業の一部は中止又は内容の変更を余儀なくされ、その中でも災害救護訓練や救急法等の講習会、青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター等の研修、各種委員会や奉仕団活動は大きな制約を受けましたが、「救うを託されている」団体として県民の皆さまの期待と信頼に応えることができるよう、コロナ禍で必要とされる事業を実施するとともに、ICT（情報通信技術）やオンラインツールの活用など工夫しながら取り組んでまいりました。

また、赤十字の事業を支える会員の増強と活動資金募集活動では、厳しい経済情勢の中、地区・分区をはじめ関係各位のご尽力により、総額6億3,400万円を超えるご協力をいただきました。

更に、さいたま・小川・深谷の各赤十字病院では、地域の基幹病院としてニーズに応じた医療を提供するとともに、県や医師会等からの要請に基づき新型コロナウイルス感染症患者の診察や受入れに積極的に取り組んでまいりました。特別養護老人ホームでは、感染者発生を徹底的に防ぎながら地域に根ざした介護の充実に努めました。血液事業では、献血者減少に伴う供給数不足が懸念される中、安全な血液製剤の安定的な確保に向けて啓発活動を強化してまいりました。

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ため、事業を進めることができたのは、ひとえに関係各位のご協力の賜物であり、心から深く感謝申し上げます。

今後も赤十字事業に対し、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

日本赤十字社埼玉県支部

事業報告

3 - 4	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)への対応
5 - 6	災害救護活動
7 - 8	救急法等の講習
9	赤十字ボランティア
10	青少年赤十字
11 - 12	医療事業
13	社会福祉事業
14	血液事業
15	国際活動・看護師の養成
16	広報活動

資料

17 - 18	令和2年度歳入歳出決算
19	埼玉県支部について
20	埼玉県支部役職員一覧
21	県内赤十字施設一覧

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の取組実績及び、
令和3年3月31日時点の情報を基に作成しています。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)への対応

1 救護活動・医療支援

国や埼玉県からの要請を受け、医療スタッフ等の派遣を行ったほか、感染症の発生及びまん延状況下における救護活動や体制整備を行いました。

- 県内宿泊療養施設に一時滞在している軽症者への診療、健康管理のため、小川赤十字病院及び深谷赤十字病院から医師、看護師を延べ14日間・23人派遣。
- 新型コロナウイルス感染症対策の現場支援のため、埼玉県コロナ対策チーム（COVMAT）の一員として、さいたま赤十字病院及び深谷赤十字病院から県内医療施設や福祉施設へ医師、主事を延べ9日間・13人派遣。
- さいたま市大宮区内の夜の街関連の従業員に対するPCR検査にさいたま赤十字病院が協力。
- 大規模災害が発生した際に県内の避難所等へ配付する救援物資として、感染予防セット（マスク・体温計・手指消毒液の3点を1セット）を1,000セット整備。
- 救護活動用の各種感染防護資材（サーナカルマスク・手袋・ゴーグル・ガウン・ヘアキャップ等）を整備。
- 新型コロナウイルス感染症を踏まえた救護班の活動マニュアルを策定。
- 「新型コロナウイルスの感染に留意した救護班活動」に関する研修教材を制作。



新型コロナウイルス感染症の対応を行う救護班（税務大学校和光校舎）

2 医療体制

埼玉県内3つの赤十字病院では、県や医師会等からの要請に基づき、発熱患者対応医療機関として、感染の疑いがある患者も含め日夜、診察・治療にあたっています。

また、入館者への検温の実施や入院患者家族の面会制限、帰国者接触者外来の設置など感染防止に取り組んでいます。

引き続き、感染管理体制の徹底に努めた上で、各地域の医療体制を守るべく新型コロナウイルス感染症へ対応してまいります。

●医療現場の活動レポート

<https://www.jrc.or.jp/jp/kansensho/>



小川赤十字病院へ募金や千羽鶴、寄せ書きメッセージを送った川越市立霞ヶ関小学校JRC委員児童



小学生にやさしさと思いやりの心を伝えました

3 差別・偏見への啓発活動

新型コロナウイルス感染症は「病気」「不安」「差別」の3つの顔を持っています。それらが関連して引き起こされる負のスパイラルを断ち切るために一人ひとりにできることを伝える活動として、県内学校の児童・生徒や教職員のほか、地域の人たちに向けて、人権教育の出前授業を行っています。

- 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」ダウンロード
https://www.jrc.or.jp/saigai/news/200326_06124.html

4 コロナ禍での対応

●血液センター

外出自粛の影響により献血者が減少している中、輸血が必要な方の命を繋ぐために、日々協力を呼びかけています。また、献血会場では、感染防止の徹底を図っています。

●社会福祉施設

県内2つの特別養護老人ホームでは、入所者の感染防止対策のため、面会の制限など細心の注意を払いながら、生活の支援を行っています。



緊急事態宣言下で献血協力の街頭呼びかけ

地震、台風、水害、火災 一人でも多くのいのちを救うために

災害救護活動は日本赤十字社の最も重要な事業のひとつであり、社会から求められる大きな使命です。そのため、災害時に備えて常備医療救護班10個班（1個班標準6人編成）、血液供給要員及び災害対策本部要員を救護員として189人を登録し、救護訓練や研修を実施して研鑽に努めるなど、救護体制に万全を期しています。

その他、救護設備等の充足整備、被災者への救援物資配分、弔慰金の贈与、義援金の受付など、それぞれの災害の規模や状況に即して柔軟に幅の広い対応を行っています。

① 災害救護活動

令和2年7月豪雨災害

7月12日（日）から16日（木）までの間、内閣府調査チームの一員として、さいたま赤十字病院の医師1名（災害医療コーディネーター）を熊本県へ派遣しました。

② 訓練・研修会等

いつどこで起こるか分からない災害に備え、迅速な救護活動ができるよう様々な被災状況を想定した訓練や救護員の資質の向上を図るための研修会等を行いました。

名称	日程	開催場所	参加人数等
スキルアップ研修(1)	7月17日 7月22日	埼玉県支部	18人(受講者・スタッフ)
スキルアップ研修(2)	10月29日	埼玉県支部	18人(受講者・スタッフ)
埼玉県独自DMAT養成研修	12月17日 ～12月18日	埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター	6人(受講者・スタッフ)
こころのケア研修会	2月5日	深谷赤十字病院	24人(受講者・スタッフ)
第2ブロック被災地支部 災害対策本部運営・支援訓練	3月5日	第2ブロック各支部	3人(受講者・スタッフ) ※WEB開催
支部災害対策本部要員研修会	3月8日 3月10日	埼玉県支部	24人(受講者・スタッフ)
救護員としての赤十字看護師研修会	3月19日	深谷赤十字病院	15人(受講者・スタッフ) ※WEB開催

③ 救護設備・資材の整備等

- 地域における災害救護体制の整備を図ることを目的として策定した「日本赤十字社埼玉県支部地区・分区救護設備・機器配備要綱(第6次3か年計画:令和元年度～3年度)」に基づき、地区・分区向けに18品目の資材(テント、簡易ベッド等)を配備。
- 救護活動用に13品目の感染防護資材(防護服・N95マスク等)を整備。
- 県内の火災・床上浸水等の小規模災害に対し救援物資(布団セット282組、毛布288枚、緊急セット182個)を配分。
- また、災害弔慰金として700,000円(31件)を支給。
- 5地区・分区に赤十字救援車5台を配備。



整備した感染防護資材



支部災害対策本部要員研修会

④ 義援金等の受付状況

日本赤十字社は国内外の災害等に対する義援金・救援金を受付け、被災地に送金しています。

●国内災害義援金

義援金名	件数	金額
東日本大震災義援金	313件	4,032,591円
平成28年熊本地震災害義援金	159件	1,010,939円
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	111件	221,367円
平成30年7月豪雨災害義援金	107件	436,683円
令和元年8月豪雨災害義援金	88件	304,606円
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	69件	452,046円
令和元年台風第19号災害義援金	234件	2,539,595円
令和2年7月豪雨災害義援金	586件	22,808,568円
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	32件	376,860円
合計	1,699 件	32,183,255円

●海外救援金

救援金名	件数	金額
無指定海外救援金	5件	56,434円
中東人道危機救援金	6件	10,727円
バングラデシュ南部避難民救援金	31件	65,680円
NHK海外たすけあい	821件	1,305,467円
合計	863件	1,438,308円

とっさの手当ができる人を 一人でも増やしていくために

応急手当の知識と技術を学ぶことで、一般の方でも尊い命を救うことができるよう講習会を開催しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、多くの講習が既定のカリキュラムで実施することが困難となりました。現在では、受講者や指導員等全ての講習関係者の安全を確保しながら集合型の講習を開催し、受講者数の制限やソーシャルディスタンスを確保しながら実施しています。また、オンライン形式での講習配信環境も整備し、一人でも多くの人に習得いただける体制を作りました。命と健康を互いに守りあい、支えあえる社会を目指します。

① 救急法

一次救命処置（心肺蘇生法とAEDの使い方）やけがの手当についての知識と技術を学びます。令和2年度は新型コロナウイルス感染症のまん延により、短期講習のみを開催しました。

名称	回数	受講者数	概要
基礎講習	開催なし		傷病者の観察の仕方、一次救命処置等救急法の基礎
救急員養成講習			急病の手当、けがの手当、搬送及び救護
短期講習	75回	1,305人	基礎講習及び救急員養成講習の内容の一部

② 水上安全法

水の事故から命を守るための知識と技術を学ぶ講習ですが、新型コロナウイルスへの感染防止のため、すべての講習会を中止としました。代替事業として、これまで特に指導依頼が多かった「着衣泳」の講習動画を作成（協力：埼玉県教育委員会・日赤埼玉水上安全奉仕団）し、YouTubeで配信しました。この動画は、県内31校の小学校ホームページで紹介されたほか、警察署など多くの場で教材として活用していただいている。



日赤埼玉水上安全奉仕団員による動画の撮影現場



③ 健康生活支援講習

家庭における高齢者の健康管理、介護予防、介護の仕方等の知識と技術を学びます。

名称	回数	受講者数	概要
支援員養成講習	開催なし		高齢期の健康維持・増進、家庭内看護、自立への介護等
災害時高齢者生活支援講習	6回	67人	災害時の高齢者支援、支援技術
短期講習	2回	65人	支援員養成講習の内容の一部

④ 幼児安全法

子どもの事故予防や応急手当、看病の仕方等の知識と技術を学びます。

名称	回数	受講者数	概要
支援員養成講習	開催なし		子どもに起こりやすい事故の予防と手当、病気への対応
短期講習	28回	314人	支援員養成講習の内容の一部

⑤ 防災教育事業

防災意識の啓発と災害から身を守るための知識と応急手当等を学びます。

名称	回数	受講者数	目的
赤十字防災セミナー	5回	67人	地域での災害時ボランティア育成
赤十字減災セミナー	2回	40人	過去の災害から学んだ経験を今後の減災に役立てる
防災教育プログラム	5回	877人	児童生徒・教職員向けの防災教育

⑥ 講習普及を担うボランティアの育成

- 埼玉安全赤十字奉仕団勉強会
- 埼玉県子育て介護赤十字奉仕団勉強会

⑦ 講習指導員の養成・スキルアップ

各種講習の講師や指導員は、定期的に研修会に参加することにより常に最新の指導技術を維持することに努めています。なお、新たな指導員養成のための講習会は、新型コロナウイルス感染症のまん延状況を踏まえ、次年度へ延期しました。

⑧ 救急法等指導員在籍状況

	赤十字職員	ボランティア	合計
救急法指導員	99人	107人	206人
水上安全法指導員	5人	50人	55人
雪上安全法指導員	1人	4人	5人
健康生活支援講習指導員	42人	35人	77人
幼児安全法指導員	45人	61人	106人

地域や赤十字を支える大きな力

地域のボランティアが主体となって、人道博愛の精神のもとに、災害時の救援活動、献血の推進、障がいを持つ方や高齢者の福祉向上のための奉仕活動などを実践し、明るく住みよい地域社会づくりに貢献しています。また、地域や団体ごとに工夫を凝らしたPRに努め、赤十字のすそ野を広げるための活動も推進しています。

① 奉仕団数及び団員数

地区別	区分	管内総数	結成地域数	結成比率	奉仕団数	団員数
地域奉仕団(市・区) ^{*1}	49	28	57%	28団	4,391人	
// (町・村)	23	21	91%	21団	1,655人	
小計	72	49	68%	49団	6,046人	
青年奉仕団	—	—	—	1団	12人	
特殊奉仕団 ^{*2}	—	—	—	9団	900人	
救護ボランティア	—	—	—	—	57人	
合計	72	49	68%	59団	7,015人	

*1 さいたま市を除く市及びさいたま市内 10 区の合計

*2 マジック、安全、さいたま赤十字病院ボランティア、ナース、支部援助、水上安全、青少年赤十字賛助、子育て介護、埼玉工業大学（大学職員・学生）

② コロナ禍における創意工夫した活動

毎年実施している会員増強運動をはじめとした赤十字事業全般への協力、福祉施設・医療機関等への慰問や作業奉仕などの活動及びボランティア（奉仕団員）のスキルアップ研修会は、新型コロナウイルス感染症まん延に伴う外出自粛要請等により、中止や規模を縮小して実施しました。

コロナ禍においても行える活動として、マスク等感染防止対策に活用できる手作り品を作製し、地域の福祉施設等に寄贈したほか、感染症まん延下で災害が発生した場合に備えた炊き出しの実施方法の検討会を開催し、その報告動画を制作するなど、各奉仕団で創意工夫した活動を行いました。



共通活動目標

- 地域防災訓練への積極的参加
- 地域に求められる奉仕団活動の推進
- 赤十字防災セミナーの受講

コロナ禍の活動として手作りマスクを作製した毛呂山町赤十字奉仕団

自ら「気づき、考え、実行する」人を育てるために

赤十字精神に基づき、青少年が日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的に「健康・安全」、「奉仕」、「国際親善・理解」の三つの実践目標を掲げ、学校教育の中で活動を展開しています。

① 青少年赤十字加盟校の状況

新たに11校が新規加盟し、596の学校（園）で約19万人のメンバーが活動を行いました。また、青少年赤十字研究奨励費を49校に交付し、活動の多様化・活性化を促進しました。

● 加盟校(園)、メンバー数

	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
学校数	129園	256校	147校	62校	2校	596校(園)
メンバー数	17,692人	109,198人	54,085人	12,369人	189人	193,533人

② オンラインツールを活用した活動

子どもたちの自主性や自律性を引き出すため、学校の先生が指導者となりメンバー（児童・生徒）を対象に毎年宿泊型集合研修「リーダーシップ・トレーニング・センター」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため全て中止としました。

こうした中、高校生のメンバーが主となる高校生協議会の活動や青少年国際交流事業などについては、オンラインツールを活用することで新たな形での学びや活動の機会を創出することができました。



高校生協議会が11月29日に開催した学習会
「新型コロナウイルスについてもっと知ろう！～これから私たちにできること～」のアイスブレイクの1コマ

医療を必要とする人の健康と安全を守るために

高度化、専門化の進む医療環境に対応するため、日本赤十字社では医療事業推進本部制を敷き、健全かつ安定的な病院経営を維持するためグループ運営に努めています。

県内においては各地域の中核医療機関として、高度医療、救急医療、周産期医療、保健衛生活動の中心的役割を担っているほか、新型コロナウイルス感染症患者の治療・受け入れや病床確保に努めるなど、赤十字の理念に基づく幅広い医療事業を展開しています。

① 赤十字病院

●さいたま赤十字病院（さいたま市中央区） 638床（一般632床、精神6床）

高度救命救急センターと隣接する県立小児医療センターと連携して総合周産期母子医療センターを運営するなど、県南地域の中核病院として高度で専門的な医療を提供しています。

《常備救護班登録 4班》

内訳) 医師8人、看護師長4人、看護師8人、
薬剤師4人、主事12人



●小川赤十字病院（小川町） 302床(一般252床、精神50床)

県西地域の中核病院として地域の救急医療に取り組むほか、訪問介護ステーション、精神科デイケアセンターを併設し、地域に根差した医療を担っています。

《常備救護班登録 3班》

内訳) 医師3名、看護師長3名、看護師6名、
薬剤師3名、主事6名



●深谷赤十字病院（深谷市） 474床（一般468床、感染症6床）

県北地域の基幹病院として、ヘリポートを有した第三次救急医療を担う救命救急センターなど高度な救命機能を保持しつつ、骨髄移植や臓器提供施設等の機能を併せ持つ災害拠点病院です。

《常備救護班登録 3班》

内訳) 医師3名、看護師長3名、看護師6名、
薬剤師3名、主事6名



② 新型コロナウイルス感染症対応

各赤十字病院は、埼玉県が指定する「重点医療機関」として新型コロナウイルス感染症陽性患者の入院治療にあたっています。県や保健所の要請に基づき、病院の持つ機能に合わせて、重症患者への集中治療や手術対応、中等症患者の入院収容などを行っています。

このほか、発熱患者への検査や診療、地域医療従事者へのワクチン接種にあたる等、新型コロナウイルス感染症に対し、日夜対応をしています。

引き続き、感染防止対策を徹底しながら高度専門医療や救急医療にも努めてまいります。



新型コロナウイルス感染症陽性患者への治療にあたる医療従事者

●入院外来別延べ患者数

	さいたま赤十字病院	小川赤十字病院	深谷赤十字病院
入院患者数	195,141人	79,334人	119,132人
外来患者数	318,733人	134,500人	174,415人
合計	513,874人	213,834人	293,547人

●赤十字病院へのご寄付、医療従事者への励ましの声など

赤十字活動資金のうち、県内赤十字病院のためにお寄せ頂いたご寄付や、多くの個人・団体、企業様からのご支援や激励のお声を頂いたことは、各病院の医療従事者にとって大きな励みとなりました。



医療従事者への励ましのメッセージ (上) 深谷市内地域の皆さまから (左下) 川口西中学校3年生の皆さまから
(右下) 小川赤十字病院の近隣に住む9才の男の子から

支援を必要とする人の 尊厳を守るために

2つの特別養護老人ホームでは、地域住民やボランティア等の協力を得て施設の運営をしており、災害時ににおける要援護者支援施設として福祉避難所に指定されています。

また、協力病院と連携した健康管理や理学療法士による身体機能維持に努めながら、利用者一人ひとりの個性を尊重し、自立した生活を営めるよう、質の高いサービス提供を心がけました。

① 特別養護老人ホーム小川ひなた荘（小川町）

隣接する小川赤十字病院との連携により、医療依存度の高い利用者に対しても迅速な対応ができる体制を整え、地域高齢者の福祉向上に努めています。

【運営・処遇方針】

- 利用者の人権の尊重と心の通い合う介護の実践
- 利用者、家族への十分な説明と同意によるサービスの提供
- 地域に根差した透明性のある施設運営

【利用実績】

- ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 一日平均53.8人（定員55人）

② 特別養護老人ホーム彩華園（熊谷市）

平成17年に埼玉県から移管を受けて以来、日本赤十字社が運営を行っており、「利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動します。」という精神に基づき、特に下記の3つのケアを重点項目として取り組んでいます。

【運営・処遇方針】

- 認知症になってもその方らしさが失われることなく生活できるように支援する
- 安らかな最期を迎えるようにご本人やご家族と一緒に見て取りケアに取り組む
- できる限り口から美味しく食事がとれるように多職種で口腔ケアに取り組む

【利用実績】

- ・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
一日平均86.8人（定員88人）
- ・短期入所生活介護事業（ショートステイ）
延べ 3,329人
- ・通所介護事業（デイサービス）
延べ 2,849人
- ・居宅介護支援事業所
延べ 966人



感染症防止対策としてガラス窓越しの面会としています

事業報告

血液事業

輸血を必要とする患者のもとに 24時間365日必ず届けるために

県内に7か所の献血ルームを開設し街頭で献血協力の呼びかけを行っているほか、献血バスを各地へ運行し、安全性の高い輸血用血液を安定的に確保し、医療機関に供給しています。

急速な少子高齢化により全国的に献血協力者が減少する中、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響もあり、深刻な献血協力者不足となる事態もありましたが、献血の重要性を広く知って頂くため、行政と一体になって日々の献血のご協力を呼び掛けたほか、各種キャンペーンを積極的に展開し、献血者数の増加に努めました。



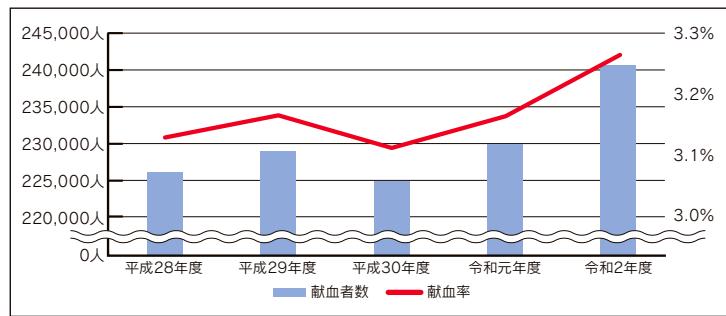
埼玉県赤十字血液センター（さいたま市見沼区）

① 献血状況

●令和2年度献血者数

献血種別	献血者数
200mL	12,943人
400mL	157,262人
成分献血	70,242人
合計	240,447人

●献血者数、献血率※の推移



※献血率(%)=県内献血者数／総務省発表の県人口×100

② 実施事業

ア イベント・キャンペーン

- 彩の国さいたま「愛の血液助け合い運動」 [7月～8月]
- 「はたちの献血」キャンペーン [1月～2月]
- 「クリスマス献血キャンペーン2020」 [12月]

イ その他の取り組み

- 血液に関する出前講座 [通年]
- 献血推進ポスター・コンクールの実施 [8月]



クリスマス献血キャンペーンはオンライン（YouTube）で実施され埼玉西武ライオンズの選手も登場しました

世界中で苦しむ人々のために

世界的な人道支援団体である赤十字社の一員として、武力紛争、難民問題、自然災害など世界各地で起こる危機に対し、赤十字国際委員会や国際赤十字・赤新月社連盟の調整の下、緊急救援から長期にわたる人道支援まで多岐にわたる活動に積極的に取り組んでいます。

① 国際救援・開発協力事業

- ア 北関東四県（埼玉・茨城・栃木・群馬）支部共同支援事業
 - バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業
- イ NHK海外たすけあいキャンペーンを実施

② 国際交流・派遣事業

毎年実施している大韓赤十字社京畿道支社をはじめとした各国赤十字社との交流事業は、新型コロナウイルス感染症による渡航制限により中止としました。



避難民ボランティアへの研修
©バングラデシュ赤新月社

救援・救護活動ができる 赤十字看護師を育成するために

日本赤十字看護大学さいたま看護学部（運営：学校法人日本赤十字学園）では、日本赤十字社の使命である救援・救護活動を実効的に展開できる看護師を養成しています。今後の医療環境を見通し、未来に向けてリーダーとして役割が果たせる人材育成を目指しています。この運営協力のため、講師派遣及び資金助成を行いました。



令和2年4月に日本赤十字看護大学の大宮キャンパスとして開設されました

赤十字をもっと知っていただくために

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等の開催に大きな制約がありました。このような状況下にあっても赤十字の理念や活動について、広く県民の理解・協力をいただくために、オンラインツールを活用した新たな広報活動に努めました。

① イベントへの参加・開催

ア 「防災フェア」への参加【9月12日～13日：ピオニウォーク東松山（東松山市）】

災害救護活動時の写真や赤十字救援物資の展示のほか、コロナ禍における一次救命処置手順・留意点の紹介、赤十字事業紹介リーフレットの配布を行いました。

イ 「戦後75年 戦時救護班史料展」の開催

【11月4日～12月4日：埼玉県支部（さいたま市）】

日中戦争から第2次世界大戦の間に、埼玉県支部から派遣された救護員に焦点をあて、戦争の悲惨さと平和の大切さを考える史料展を開催しました。当時を振り返ったインタビュー映像の放映、遺された救護服や医療セット等の装備品、派遣命令書等の現物を展示し、多くの皆さんにご来場いただきました。



元赤十字看護婦の川田様が大野支部長（知事）に展示物を説明

② YouTubeチャンネルの開設

インターネット上の動画配信サービス「YouTube」に埼玉県支部のチャンネルを開設しました。事業を紹介する動画を制作・配信し、世界中の方に赤十字事業を周知できる広報媒体を整えました。

●配信している主な動画



●チャンネルリンク



③ テレビ・新聞等による広報

赤十字会員増強運動月間や防災啓発等を中心に、地元新聞紙への掲載やテレビスポットCMを放映しました。また、渋沢栄一が関係した現存企業・団体を紹介するテレビ番組「シブサワ解体深書（テレ玉：毎週木曜日19時～放送中）」の撮影協力として、赤十字事業の紹介をしました。



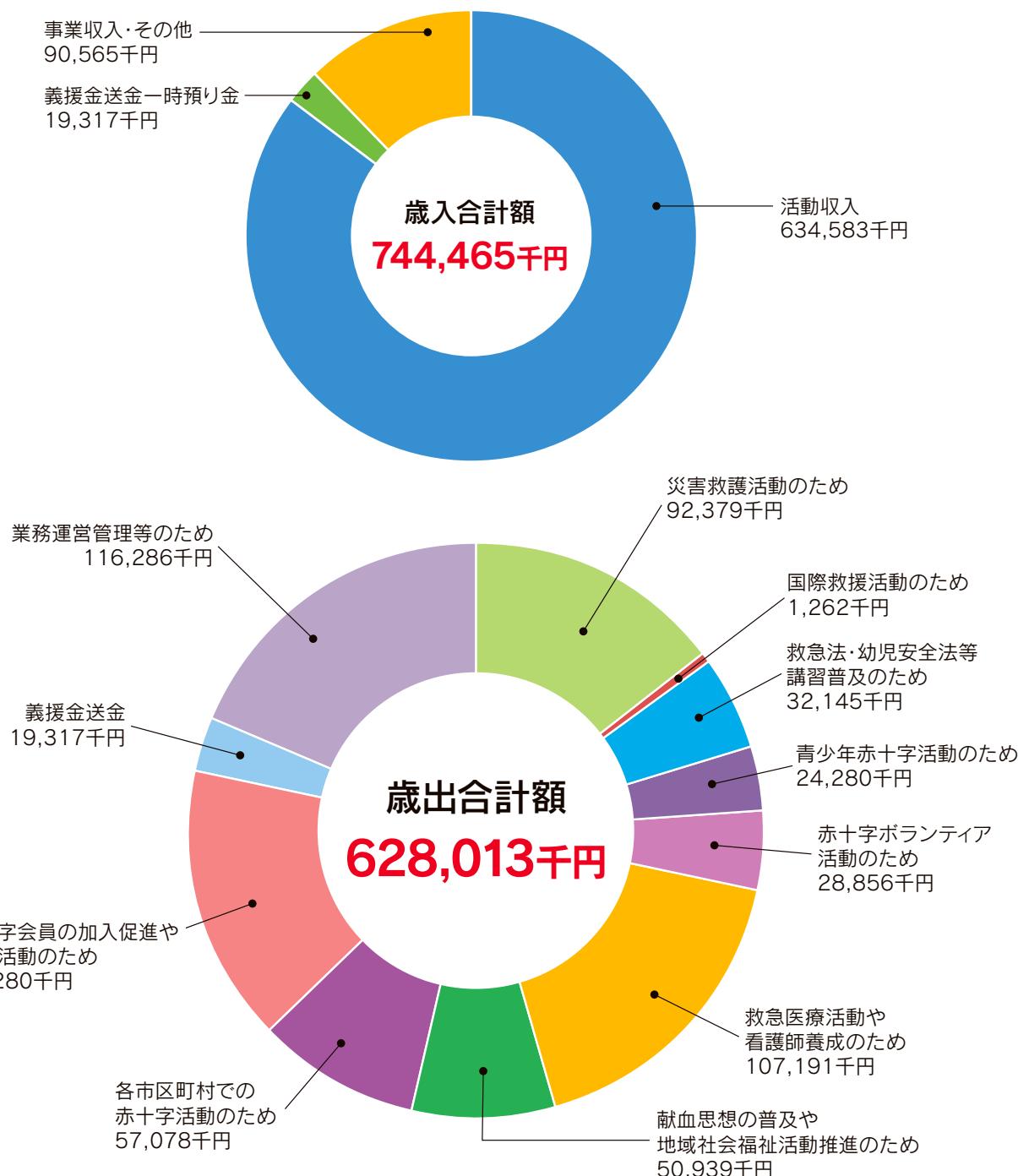
お笑い芸人「三四郎」さんへの救急法講習の体験撮影現場

令和2年度歳入歳出決算

日本赤十字社の活動は、赤十字の理念に賛同し、共感し、支援してくださる方々（会員）によって支えられています。人間のいのちと健康、尊厳を守り、苦しんでいる人を救う、災害救護をはじめとした活動は、会員の支援によって成り立っています。

① 岁入歳出決算報告

令和2年度も皆さまからお寄せいただいた活動資金等を財源として、赤十字活動を展開することができました。



【備考】

- 差引額「116,452千円」は次年度に繰り越しさせていただきました。
- 赤十字病院、社会福祉施設および血液センターは施設ごとの特別会計になっており、この収支報告には含まれていません。

② 活動資金実績

目標額		実績額	
558,000,000円		634,582,862円 〔達成率 113.7%〕	
内訳		内訳	
●地区・分区扱い	420,000,000円	●地区・分区扱い	390,193,099円 〔達成率：92.9%〕
●個人・団体	114,000,000円	●個人・団体	192,336,756円 〔達成率：168.7%〕
●法人	24,000,000円	●法人	52,053,007円 〔達成率：216.8%〕

※地域（市区町村）の赤十字窓口を通じてご協力いただいた寄付。

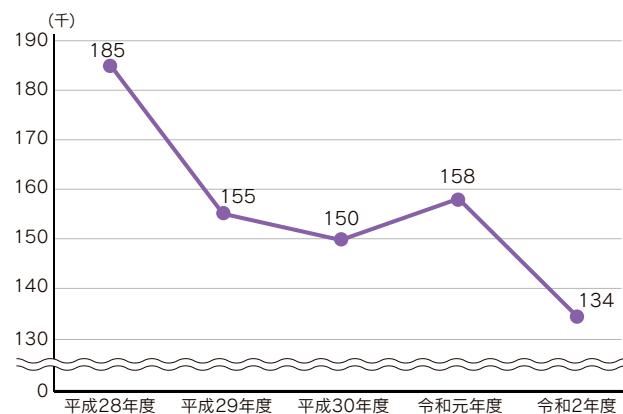
③ 指定事業活動資金・特定寄付金募集実績（再掲）

募集区分	目標額	実績件数・金額
個人指定事業社資 募集対象：個人	32,500,000円 （総務大臣承認に基づく。）	150件 32,500,000円 〔達成率 100%〕
法人指定事業社資 募集対象：法人	20,000,000円 （財務大臣承認に基づく。）	80件 20,000,000円 〔達成率 100%〕

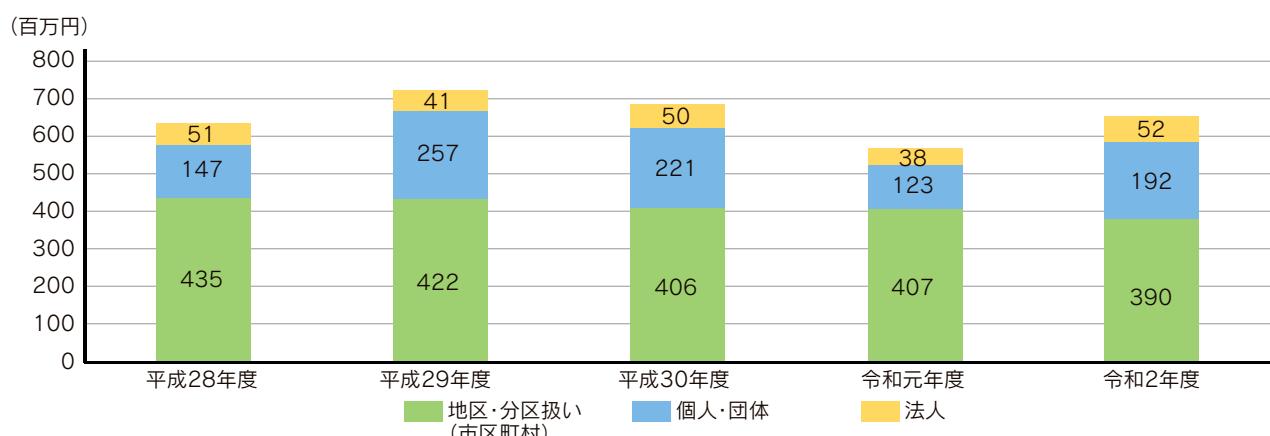
④ 管内施設への指定寄付金実績（再掲）

施設名	実績件数・金額
さいたま赤十字病院	33件 18,172,539円
小川赤十字病院	10件 1,425,000円
深谷赤十字病院	24件 4,740,100円
彩華園	1件 100,000円

⑤ 会員数の推移（過去5か年）



⑥ 活動資金実績の推移（過去5か年）



日本赤十字社（本社：東京都港区）は、人道の理念に基づき、世界各国の赤十字社・赤新月社とともに紛争や災害、病気などで苦しんでいる人々に対する救援活動を行っています。

また、国内でも、地震・水害などによる被災者の救護活動や医療・血液・福祉など、幅広い分野で活動しています。これらの活動をより地域のニーズに合わせて行うために、各都道府県に支部を設置しています。

埼玉県支部の活動はすべて、財政面でご支援いただく赤十字会員や、活動の直接の担い手である赤十字奉仕団をはじめとするボランティア等多くの方々によって支えられており、1887年（明治20年）12月5日創設以来、130年以上にわたる活動を続けて現在に至っています。

日本赤十字社埼玉県支部及び管内赤十字施設の現勢

支 部 長	大野 元裕			
会 員	個人・団体 131,801 人 法人 2,510 法人			
青少年赤十字	・加盟校（園）596 校 ・メンバー 193,533 人 ・指導者 11,032 人 学校区分 加盟校数 メンバー数 指導者数 幼稚園・保育園 129 園 17,692 人 2,742 人 小学校 256 校 109,198 人 4,375 人 中学校 147 校 54,085 人 3,058 人 高等学校 62 校 12,369 人 711 人 特別支援学校 2 校 189 人 146 人			
赤十字 ボランティア	・奉仕団数 59 団 種 別 登録者数 地域奉仕団 49 団 7,015 人 青年奉仕団 1 団 6,046 人 特殊奉仕団 9 団 12 人 個人ボランティア 一 900 人 — 57 人	登録者数 登録団数 登録者数	7,015 人 6,046 人 12 人 900 人 57 人	
講習普及事業	《講習実績》 講習回数 受講者 登録指導員数 救急法講習 75 回 1,305 人 206 人 水上安全法講習 0 回 0 人 55 人 健康生活支援講習 8 回 132 人 77 人 幼児安全法講習 28 回 314 人 106 人			
国際活動	・支部取扱海外救援金額 863 件 1,438,308 円			
災害救護	・常備救護班 10 班 ・無線局 80 局 ・救護車両 27 台（福祉施設分含む） ・支部取扱国内支援金額 1,699 件 32,183,255 円 ・配分救援物資 757 個（布団・毛布・緊急セット）			
医療事業	病院 3 施設 病院名 病床数 入院延べ患者数 外来延べ患者数 さいたま赤十字病院 638 床 195,141 人 318,733 人 小川赤十字病院 302 床 79,334 人 134,500 人 深谷赤十字病院 474 床 119,132 人 174,415 人			

血液センター	・埼玉県赤十字血液センター
献血ルーム	7 ・所沢プロペ通り献血ルーム ・川越クレアモール献血ルーム ・鴻巣献血ルーム ・大宮献血ルーム ウエスト ・越谷レイクタウン献血ルーム ・熊谷駅献血ルーム ・川口駅献血ルーム
献血者数	・200mL 献血 12,943 人 ・400mL 献血 157,262 人 ・成分献血 70,242 人 計 240,447 人
社会福祉施設	特別養護老人ホーム 2 総定員 165 人 ・小川ひなた荘 特養 55 人 ・彩華園 特養 88 人 ショートステイ 10 人 デイサービス 12 人 居宅介護支援
職員数	埼玉県支部 26 人 さいたま赤十字病院 1,446 人 小川赤十字病院 504 人 深谷赤十字病院 845 人 小川ひなた荘 20 人 彩華園 37 人 血液センター 222 人

埼玉県支部役職員一覧

(令和3年3月31日時点)

① 支部役職員

役職名	氏名	主な公職
支部長	大野 元裕	埼玉県知事
副支部長	富岡 清 石木戸道也 山崎 達也	埼玉県市長会会長・熊谷市長 埼玉県町村会会长・皆野町長 埼玉県福祉部長
監査委員	西島 昭三 小山 彰	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長 公認会計士
参与	西村 朗 岸田 正寿 坂 行正 芦村 達也	埼玉県福祉部福祉政策課長 埼玉県福祉部高齢者福祉課長 埼玉県保健医療部医療整備課長 埼玉県保健医療部業務課長

② 代議員

役職名	氏名	主な公職
代議員	西島 昭三 中村 昭作 田中憲次郎 関根 宏 関根 正昌 利根 忠博	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長 新座市社会福祉協議会顧問 会社役員 会社役員 会社役員 埼玉県経営者協会 名誉会長・日本赤十字社理事 (R3.4.1 ~)

③ 評議員

氏名	主な公職
寺島 篤	さいたま市西区指扇地区社会福祉協議会会長
谷中 紘	さいたま市北区植竹地区社会福祉協議会会長
松本 敏雄	さいたま市自治会連合会会長
武藤 勇	さいたま市見沼区大砂土東地区社会福祉協議会会長
富澤 洋	さいたま市中央区自治会連合会会長
田中 喜久男	さいたま市桜区自治会連合会副会長
石井 桂太郎	さいたま市浦和区自治会連合会副会長
細淵 紀雄	さいたま市南区武蔵浦和地区自治会連合会会長
鈴木 甫	自営業
三次 宣夫	さいたま市岩槻区自治会連合会会長
佐藤 敦弘	川越市社会福祉協議会事務局長
近藤 正広	川越市福祉部長
鯨井 敏朗	熊谷市福祉部長
藤波 康彰	川口市福祉部長
安藤 森吉	日本赤十字埼玉県有功会川口市支会長
江利川 芳治	行田市社会福祉協議会常務理事
久喜 邦康	秩父市長
瀬能 幸則	所沢市福祉部長
岡田 茂穂	会社役員
大久保 勝	飯能市長
柿沼 峠一	加須市社会福祉協議会事務局長
木村 登志男	本庄市社会福祉協議会理事
今村 浩之	東松山市健康福祉部長
時田 美野吉	春日部市自治会連合会会長
飯塚 丈記	羽生市市民福祉部長
滝嶋 正司	狭山市福祉こども部長
高木 啓一	鴻巣市健康福祉部長
小島 進	深谷市長
畠山 稔	上尾市長
斎藤 和見	草加市健康福祉部長
大澤 夕江	長瀬町長
山崎 正弘	神川町長
矢部 吉春	寄居町社会福祉協議会常務理事
清水 勇人	さいたま市長
村田 俊彦	団体役員
小野寺 貴一	会社役員
大久保 美紀	団体役員
高橋 裕一	埼玉県青少年赤十字賛助奉仕団委員長

氏名	主な公職
中井 淳	越谷市福祉部長
杉本 昭彦	越谷市社会福祉協議会会長
賴高 英雄	蕨市長
菅原 文仁	戸田市長
杉島 理一郎	入間市長
松尾 哲	朝霞市社会福祉協議会会長
村上 孝浩	志木市健康福祉部長
松本 武洋	和光市長
並木 傑	新座市長
小野 克典	桶川市長
梅田 修一	久喜市長
三宮 幸雄	北本市長
香山 庸子	八潮市健康福祉部長
星野 光弘	富士見市長
木津 雅晟	三郷市長
中野 和信	蓮田市長
石川 清	坂戸市長
木村 純夫	幸手市長
齊藤 芳久	鶴ヶ島市長
谷ヶ崎 照雄	日高市長
中原 恵人	吉川市長
高畠 博	ふじみ野市長
藤井 栄一郎	白岡市長
大島 清	伊奈町長
新井 康之	宮代町長
古谷 松雄	杉戸町長
坂巻 正士	松伏町いきいき福祉課長
林 伊佐雄	三芳町長
井上 健次	毛呂山町長
松本 恒夫	小川町長
山口 節子	元赤十字奉仕団埼玉県支部委員会委員長
立花 洋一	会社役員
平本 一郎	会社役員
平 匠子	団体役員
上木 雄二	埼玉県社会福祉協議会副会長
吉田 秀実	埼玉県民生委員・児童委員協議会事務局長
斎之平 伸一	会社役員

県内赤十字施設一覧

支 部

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社埼玉県支部	〒330-0064 さいたま市浦和区岸町3-17-1	048-789-7117

赤十字病院

施設名	所在地	電話番号
さいたま赤十字病院	〒330-8553 さいたま市中央区新都心1-5	048-852-1111
小川赤十字病院	〒355-0397 比企郡小川町小川1525	0493-72-2333
深谷赤十字病院	〒366-0052 深谷市上柴町西5-8-1	048-571-1511

社会福祉施設

施設名	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム小川ひなた荘	〒355-0321 比企郡小川町小川1548-1	0493-74-2191
特別養護老人ホーム彩華園	〒360-0004 熊谷市上川上266	048-524-1391

赤十字血液センター・献血ルーム

施設名	所在地	電話番号
埼玉県赤十字血液センター	〒337-0003 さいたま市見沼区深作955-1	048-684-1511
日高事業所	〒350-1213 日高市高萩1370-12	042-985-6111
熊谷出張所	〒360-0806 熊谷市奈良新田398-1	048-525-1330
所沢プロペ通り献血ルーム	〒359-1123 所沢市日吉町10-19 Tokorozawa ex 2F	04-2903-9277
川越クレアモール献血ルーム	〒350-1122 川越市脇田町4-2 ドン・キホーテ川越東口店4F	049-225-8760
鴻巣献血ルーム	〒365-0028 鴻巣市鴻巣405-4 埼玉県運転免許センター内	048-543-5511
大宮献血ルーム ウエスト	〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町2-4-1 DOM PARTⅢビル 5F・6F	048-658-5757
越谷レイクタウン献血ルーム	〒343-0826 越谷市レイクタウン3-1-1 イオンレイクタウンmori 1F	048-987-3737
熊谷駅献血ルーム	〒360-0037 熊谷市筑波2-112 JR熊谷駅構内	048-525-8802
川口駅献血ルーム	〒332-0017 川口市栄町3-1-24 川口駅東口ビル 3F	048-223-7661
埼玉製造所 ^{※1}	〒355-0071 東松山市新郷493-1	0493-24-3111

※ 1 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センターの分置施設

看護師等教育施設

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 ^{※2}	〒338-0001 さいたま市中央区上落合8-7-19	048-799-2747

※ 2 学校法人日本赤十字学園による運営。日本赤十字看護大学の大宮キャンパス。

Mission statement



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

令和2年度 事業報告書



〒330-0064
埼玉県さいたま市浦和区岸町3-17-1
TEL 048-789-7117
FAX 048-834-1520
公式ホームページ
<https://www.jrc.or.jp/chapter/saitama>
公式facebookページ
<https://www.facebook.com/redcrosssaitama>